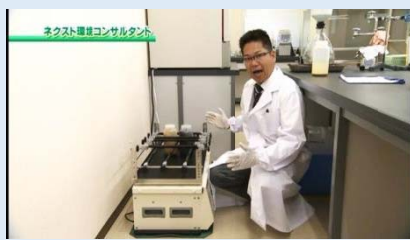




にネクスト登場!!



平成 27 年 10 月 8 日、テレビユー山形 (TUY) さんの夕方の人気コーナー『ぐっしょぶ YAMAGATA』に弊社が登場しました。番組では主に産業廃棄物の溶出試験について取り上げてもらいました。我々の業務は普段、表に出る機会が少ないため、番組放送後「どんなことをしているのか初めてわかった」といった感想を多くいただきました。弊社の業務について知ってもらいたい機会になり、大変うれしく感じています。



皆さんご存じの通り、弊社は「測る、知る、だけではなく設計・施工までを行う分析会社」です。分析対象は水、大気、土壌、産業廃棄物など幅広く、これらの試料に含まれる有害物質の有無を主に調べています。

分析業務以外にも、工場などの作業環境が適切に保たれているかを調査する作業環境測定や、排水の水質管理・調整を行う機器の管理メンテナンスなども行っています。これら全ての業務を通して、お客様の想いを実現していけるよう努めていきたいと考えています。

「番組を見逃してしまった!!」という方に朗報です。放送されました番組は現在、弊社のホームページ及び「産廃分析.com」ホームページにて公開されています。視聴されていない方はぜひともご覧ください。



原子吸光装置



ろ過



ネクスト環境コンサルタントは
産業廃棄物の分析で日本一を目指して **ぐっしょぶ!**

法令改正 チェックポイント

「水質汚濁防止法施行規則等の一部を改正する省令」が公布され、平成 27 年 10 月 21 日から施行されることになりました。今回の省令改正は、トリクロロエチレンの基準について以下のように改正するものです。

排水基準: 0.3mg/L ⇒ 0.1mg/L 地下水基準: 0.03mg/L ⇒ 0.01mg/L

改正後の排水基準は、施行期日以後に新たに特定事業場となる事業場には直ちに適用されますが、既設の特定事業場には一定の適用猶予期間があります。詳しくは環境省のホームページを参照下さい。

新型



GC/MS

導入

平成 27 年 9 月 18 日、弊社に待望の新しい GC/MS が導入されました。約 1 週間の搬入作業・講習会を経て、現在は絶賛稼働中です。最新モデルということもあり、旧 GC/MS と比べることが増え、時間効率も大幅に向上しました。今回はこの新型 GC/MS について、担当の漆山保さんに詳しくお聞きしました。



Q1.新しい GC/MS の特徴を教えてください。

高感度にて高速の分析が可能な機体です。さらに古いものに比べて非常にコンパクトで、省スペース化を実現しています。

Q2.旧 GC/MS と比べて便利になった点はどこでしょう。

特に実感しているものは、以下の 4 点です。

- ①分析時間の短縮→従来の約半分に!!
- ②一度に分析できる検体数が増加→12 本から 108 本に!!!
- ③専用のソフトの充実・向上
→PC 操作のみで様々な設定、定量・定性などが可能に!!
- ④流量コントロールシステムにより、ガス消費量が低減
→ヘリウムガスの消費が大幅に低減!!

Q3.今後 GC/MS をどのように使っていきたいですか。

とにかく便利なソフトが増え、できることが増えました。その分覚えることも多く、まだ十分に性能を引き出せない部分もあります。これから使い方をさらに学びたいと考えています。



GC/MS って？

GC/MS とは塩素系有機化合物などの定量(どれくらいの量か決定する)、定性(どの種類の物質か判定する)を行う分析装置です。装置は GC(ガスクロマトグラフ)と MS(質量分析装置)で構成されており、GC で分解した物質を MS で分析します。

GC にはカラムという非常に細く長い管があります。各物質は各々の特性が異なるため、カラムを通過する速度もそれぞれ異なります。そのため、長い管を通るうちに差が生まれ、それぞれの物質に分離していきます。分離した物質は MS にてイオン化され、さらに細かく分解されます。このイオンの量を測定し、物質の量や種類を判定します。

弊社では主に、1,4-ジオキサンやジクロロメタンなど VOC(揮発性有機化合物)の測定に利用しています。

新型 GC/MS の今後の活躍にご期待下さい

ネクスト環境の壺… (編集後記)

もう今年も残すところ少なくなってきました。今年一年を振り返って見ますと正に『飛翔の年』だったと感じます。新入社員が加わり、最新の分析機器の導入などで戦力的にも充実し、地元メディアに取り上げられる機会も増えてきました。来年はさらに大きく飛翔出来るよう社員一同頑張りたいと思います。

社員コラム Vol.2

かんのじゅんの「漢字の話」

今回の社員コラムは、教育系学類卒という異色の経歴を持つ、菅野淳が担当します。学生の頃は主に国語科の勉強をしていましたので、その経験から普段とは違う視点で弊社をみていければと考えています。

今回は弊社の社名にも使用されています「環境」より、「環」という漢字を取り上げたいと思います。

「環」の字源はその昔、葬儀に使用した環形の玉といわれています。古代中国では魂は廻るものと考えられていたため、葬儀の際復活を願い、死者の襟元に玉を添えたそうです。その死者に玉を捧げる様子から「環」の字が生まれたとされています。実際に殷代の墓からは、環形の玉器が多く出土しています。玉を使った還魂の儀式は、一般的だったのかもしれない。

現在でも「環」という字はその特性を引き継ぎ、

- ①わっか・輪状のもの・円環
- ②めぐる・まわす・かこむ
- ③めぐらす・まわす・かえす

などの意味で使われています。

環境というものも大きな視点でみますと、様々なものが巡り巡る、大きなサイクルを形成しています。「環」の字はそんな「環境」を表すのにピッタリな漢字といえるのではないのでしょうか。

